

ジンコソーラーが 2019 年日本 B20 サミットに出席 「新科学技術と新エネルギー、5.0 社会の KPI」を提出

2019 年 3 月 15 日、世界をリードする太陽光発電会社ジンコソーラー（NYSE：JKS）は中国企業の代表として、3 月 15 日に日本東京で開催される B20 サミットに出席したと公表した。持続可能な発展社会 5.0 の推進と実現を協議した。

今回の政策諫言の核心概念は社会を 5.0 発展時代に推進することである。狩猟時代、農耕時代、工業時代と情報時代後に続いて、第五段階はアイデアの時代で、デジタルとエネルギー転換の仮想結合は社会の各発展の方面に浸透して、国連のグローバルの持続可能な開発目標と緊密につながっている。

ジンコソーラーの副会長銭晶氏はサミットに出席した時、次のように提案した：

1. 気候変動を抑制することに対して、世界政府の努力はあまりにも多くない、まだ足りない。全世界の企業の省エネルギーの行動は早すぎるわけではなく、まだ遅すぎる。金融機関や資本市場はクリーンエネルギーの経済性への認識が古くて狭い。私たちは変化しているが、気候が悪化するスピードがもっと速い。
2. 気候変動を抑制する時に、グローバルの企業家たちはもっと重要な役を演じるだろう、クリーンエネルギーを使用する、あるいは投資する。全世界の商工業業界はすでにこのような社会的責任意識を形成していて、その中の商業チャンスを見て、積極的に新たな気候の経済のきっかけをつかむになっている。
3. 国連が提案したのが持続可能な発展モデルは、政府、企業、金融がより緊密、より革新的、より包容的な協力が必要で、甚だしきに至っては全世界の間の協力である。今日の気候問題は地球の全ての人々がもたらしたのだから、地球上のすべての人の力だけで解決しなければならない。
4. グリッドパリティ時代に伴って、環境気候問題は初めて経済結果を消耗することではない、経済発展を促進することになった。環境の気候の責任感のある指導者あるいは企業家はやっとな彼の国家あるいは企業を率いていっそう発展する。

「技術の進歩とビジネスモデルの革新の推進によって、エネルギー革命とデジタル革命は人々の生活、仕事と経営方式を変えています。太陽光発電の全世界の範囲内のグリッドパリティを実現して、強力で新しい発展モデルを推進します。同時に、分散型太陽光発電の特別性は人々がエネルギーを共有し、環境と発展のウィンウィンを実現しました。エネルギーと環境議題の重要なメンバーとして、ジンコソーラーは全世界の各関係者と連合して、太陽光発電の経済性を活用して、気候変動問題に対応します。」とジンコソーラーの副総裁の銭晶氏がコメントした。



ジンコソーラー副会長・銭晶氏

ジンコソーラー（JinkoSolar Holding Co., Ltd.）について

ジンコソーラー（NYSE: JKS）は太陽光発電産業のグローバルリーダーです。ジンコソーラーは中国、米国、日本、ドイツ、英国、チリ、南アフリカ、インド、メキシコ、ブラジル、アラブ首長国連邦（UAE）、イタリア、スペイン、フランス、ベルギー、その他の諸国地域にあるさまざまな公益、商業、居住区顧客基盤に対し、自社ソーラー製品を供給し、自社ソリューションとサービスを提供、販売。ジンコソーラーは2018年9月30日時点で、垂直統合ソーラー製品バリューチェーンを構築して、シリコンインゴットとウエハーで9.2GW、太陽電池で6.5GW、太陽光発電モジュールで10GWの年間総発電容量がある。

ジンコソーラーは世界で6ヶの生産拠点があり、日本（2）シンガポール、インド、トルコ、ドイツ、イタリア、スイス、アメリカ、カナダ、メキシコ、ブラジル、チリ、オーストラリア、南アフリカ、アラブ首長国連邦、15の海外子会社を持ち、販売チームはイギリス、ブルガリア、ギリシャ、ルーマニア、ヨルダン、サウジアラビア、南アフリカ、エジプト、モロッコ、加納、ケニア、コスタリカ、コロンビア、パナマとアルゼンチンに広がって、従業員が1万2000人以上を雇用しております。

〒104-0031

東京都中央区京橋二丁目2番1号京橋エドグラン9階

代表電話：03-6262-6009

FAX：03-6262-3339

ホームページ：<http://www.jinkosolar.com/index.html?lan=jp>